

新型コロナに負けない！！⑩

まずは秩父圏域の皆様、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた皆様の日々の生活の取り組み誠にありがとうございます。

5月25日、緊急事態が終了した旨の宣言がなされました。段階的に社会経済レベルの拡大がなされ、県を超えた人々の移動が解除され、街にも人の姿が戻りつつあります。しかしながら6月15日ころより、全国の新規PCR検査陽性患者さん数の7日間平均値は50名を超えるようになりました。7月12日現在、この平均値は310名になっています。

東京都では1日に200名を超える新規患者さんの報道がすでに4日間続いております。

埼玉県でも6月24日ころより新規陽性患者さんの数が再び増え、7月2日からは日に20名を超える日々が多く、7月12日には31名の新規感染者がみられました。ただ幸いなことに当秩父圏域ではおよそ3カ月間、新たなPCR陽性患者さんは見られておらず集団感染も生じておりません。これは多くの皆様が不要不急の外出を控えられ、マスクを着用し、手洗いに励まれていた成果であると思います。しかしながら現在、新たな集団感染の地とされる池袋と直通電車につながっている秩父であり、観光を大きな産業と位置付けている秩父圏域においては、今後多くの方々の移動に伴いこのウイルスの侵出も避けられないものであらうと思います。その場合、十分な感染対策を行っても私を含めて、誰もが感染してしまう危険性があると客観的には考えています。

そこで今回は自分がすでに新型コロナウイルスに感染していると想定した行動につきまして紹介させていただきたいと思います。

合言葉は『私はうつさない』です。

1) 基本的なマスク、手洗い

まず基本的なことは、他人との接触の機会を減らします。不要不急な外出は避け、突然くしゃみが出た時に唾など飛沫が飛び散らないように、またやたらと口元や鼻を触らないようにマスクをできるだけ長時間装着します。家庭、職場、学校など環境が変わる時にはこまめに手を洗ったり、手指消毒をしたり、いろいろな行動に感染を広げないようにしようと注意を払います。

2) かかりつけ医に電話で相談

喉の痛み、咳、発熱などの呼吸器系の感染症の症状、強い体の脱力感などを自覚した場合、まず、かかりつけ医に相談の電話をします。直接医療機関を受診することは、他の病気で体力が落ちて受診されている他の患者さんに新型コロナウイルスをうつしてしまう危険性が高くなります。秩父郡市医師会の先生方におかれまして、自院において発熱している方を他の患者さんとは別の時間帯に診察をされたり、診療所病院内の動線を工夫されたりして他の患者さんと接触しないようにしながら診察、加療を行っている機関があります。ともかく、かかりつけの先生に電話での御相談が一番です。

3) かかりつけ医の判断に従って次の行動へ

上記、かかりつけ医の医療機関で指示に従って、電話の内容からあるいはかかりつけの先生の診察の結果から、圏域内にある発熱病外来へ紹介状持ち受診となる場合があります。

秩父郡市医師会では秩父圏域に3医療機関の先生方に発熱病外来、PCR検査の委託を行っております。その医療機関においても患者さんどうしが密接しないように予約を取り、各医療機関の敷地内でさらに連絡を取っていただき受診の方法手順を十分に理解のうえで受診となります。

4) 新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター：0570-783-770

新型コロナウイルスに感染された方と一緒に働いていた、行動していた、会食した、集団感染がおこっている場所にいたなどいわゆる濃厚接触があると考えられる場合、かかりつけ医に相談されそこで指示を受けても、相談なしで直接でも『新型コロナウイルス感染症県民サポートセンター』に相談をするという方法があります。ここは24時間、365日受付をしている相談窓口で電話番号は0570-783-770です。ここでは、新型コロナウイルス感染症に対する一般的な相談のほか、保健所内にある『帰国者・接触者相談センター』、そこから専門外来である『帰国者・接触者外来』の受診に結び付けていただけます。

知らない間に新型コロナウイルス感染症に罹患してしまっても、『私はうつさない』と考えた行動をすることは三密を避けること、マスクを利用すること、頻回な手洗いをするのが基本であり、ゴールであるとも考えられます。

また、医療機関を受診する他の患者さんを守るため、医療崩壊を守るため、発熱時の医療機関の利用の方法につきまして記載させていただきました。いろいろとご迷惑をおかけいたしますが皆様のご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

文責 西 秀夫